

国際協力の現場を語る

JICA(独立行政法人 国際協力機構)は開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持った人達を「JICA海外協力隊」として派遣しています。この人達は海外旅行などでの体験とは違った、海外協力隊ならではの様々な体験をしてくれています。赴任国で体験した、生活、文化、人々との触れ合い、苦勞、喜び、伝えたいメッセージなどを熱く語っていただきます。

日 時:毎月第3水曜日 14時40分～15時50分
 会 場:JICA横浜 又は上大岡会場(コロナ禍時)、及びWeb会議室(Zoom)併用
 会 費:無料 (どなたでも自由に参加できます)
 主 催:NPO法人 シニアボランティア経験を活かす会
 後 援:JICA横浜

(やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を活かす会ホームページ、または下記問い合わせ先に確認して下さい。)

問合せ先:横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜3階 国際協力連絡室内
 シニアボランティア経験を活かす会 水曜会
 Fax : 045-663-3263 担当:井坂敏之 (046-887-0286)
 URL [https:// jicasvob.com](https://jicasvob.com) E-mail info@jicasvob.com



赴任国(講演者)	「タイトル」	講演概要
第185回 6月16日 (水) グアテマラ (橋本正美)		「グアテマラにおける活動報告」 中米グアテマラの中等学校における数学教育事情並びに2019年度から全生徒、教員に配布されたJICA編纂の数学教科書(国定教科書)の活用状況等を報告します。また教員の資質向上を目的とした研修会開催の必要性を教育事務所と一緒に訴えた経緯等を報告します。2019年はJICAの「グアテマラへの海外協力隊派遣30周年」の記念すべき年のことも説明します。
第186回 7月21日 (水) ブータン (鈴木洋子)		「ブータンでの活動を終えて -30年の時を超え2度の協力隊活動を経験して-」 人生2度目の派遣は(59-3)ケニア理数科教師から33年後、SVとしてのブータン。手工芸隊員として伝統工芸振興事業団に配属され染織分野を担当。外国人向け商品開発や品質向上の為の草木染指導、染色テストや草木染糸サンプルの作成、小学校でのクラフト授業等を行いました。ブータンでの生活や活動を中心に時代・職種・国が異なる2つの協力隊活動を経験して感じたこと等をお話します。
第187回 8月18日 (水) カンボジア (伊藤明子)		「カンボジアで「科学的」に教えるには？」 5年生の計算 $15.6 \times 3.7 = ?$ 子供が下の学年で学んだ事は脇へ置き、担当学年の内容をひたすら覚えさせることに日々努力している先生方に、そもそも「科学的に物を見たほうが良い」と心底思ってもらう為には何をすれば良いのか? シニアボランティアとして活動した3回計6年間を通じ、その後も現地と交流しながら、外国人である私たちはどうすべきかずっと考えてきました。この機会に皆さんと一緒に途上国の教育を考えてみましょう。
第188回 9月15日 (水) カンボジア (森 妙子)		「カンボジアの技能実習生に寄り添って」 今はコロナ禍のために一時中断していますが、近年カンボジアからの技能実習生も増えつつあります。母国では日本へ行って困らないように、日本語だけでなく文化や習慣などもある程度学習して来日します。草の根外交官の彼らの日本での生活が実りあることを願い、現地訓練校の鬼総長と仲間にならながら実習生のために、厳しくも楽しく奮闘してきたことをお伝えします。実習生に関心を持っていただけたら幸いです。
第189回 10月20日 (水) ナイジェリア (齋尾恭子)		「西アフリカの作物と食、そしてひとびと」 1994-2001年の6年間、ナイジェリアに本部のある国際熱帯農業研究所(IITA)の理事を務めました。そのIITAの農業開発での作物と食材、殊に大豆利用と豆腐製造について説明します。併せて他の西アフリカの作物と食に触れ、また、ナイジェリアのひとびと(特に女性)についても紹介します。アフリカの地で現地の為につくした日々の記録です。